

- 4) 苞の細胞の長さ と数。
- 5) 藏卵器のつく位置と数，大きさ。
- 6) 卵胞子の大きさ，色，うず巻の数，皮膜の模様。

しかし種の区別は最初は専門家に見てもらった方が安全である。

## 5. 参考文献

おもなものとして次のものをあげる。

- 1) 今堀宏三 (1954): 「日本産輪藻類総説」丸善発売。
- 2) 森岡英男 (1941): 「日本産車軸藻類」I-IV. 植物研究雑誌, 17 卷, 1-4 号。
- 3) 牧野富太郎 (1929): 「何故=我が日本産しやぢくも科植物品種ヲ研究セザル乎 (図入)」。植物研究雑誌, 6 卷, 12 号。

(金沢大学理学部植物学教室)

## C. P. THUNBERG の邦産海藻の標本に就いて

山 田 幸 男

THUNBERG の標本はスエーデン国ウプサラ市のウプサラ大学植物学教室に大切に保存されていることは周知の事実であるが本年7月幸いにして同大学を訪れ THUNBERG の標本の内，藻類のものを見ることが出来たのでその内特に日本産のものに就いて下に記してみた。

THUNBERG の藻類の標本は全部で19のカバーに収められている。

第1のカバーの紙は下の半分しかなく可成りいたんでいる。Byssus としてスミレモ (*Trentepohlia*) らしいものや藍藻らしいものが入っている。勿論此等のカバーの内ものは世界各地のものを含んでおり日本のものは僅かで南亜喜望峰のものやヨーロッパのものが大部分である。

第2のカバーの上には何も書いていない。内には *Cladophora mirabilis* (AG.) RABENH. と PAPENFUSS が1940年に決めた標本その他がある。

第3のカバー中に *Fucus biserratus* (写真A) という標本があり台紙の左上に “e japonia THUNBERG” と書いてある。此の標本は嘗て故中井猛之進先生からお話があつたホンダハラの一標本である。当時中井先生の示されたスケッチでは基部が明らかでなかつた為確かにホンダハラと決定する迄に

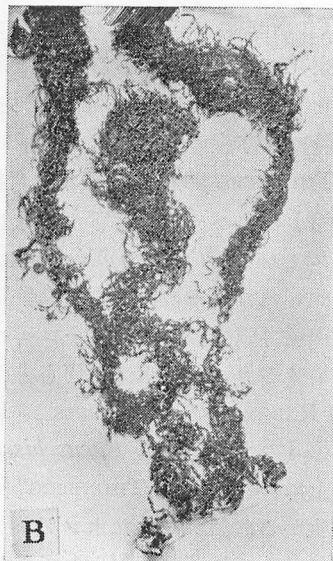
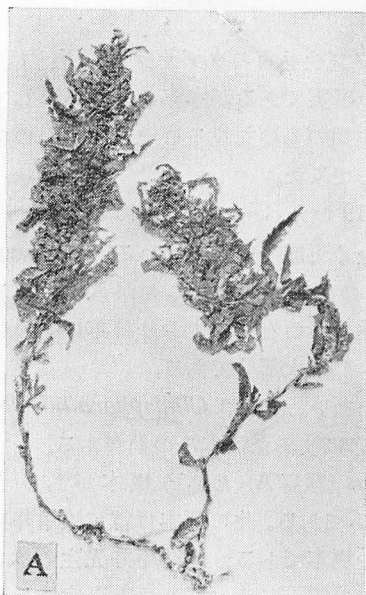
は至らなかつたが此の標本は基部を有し而もホンダハラの特徴たる仮盤状根を示すものの如くである。尚 JUEL: *Plantae Thunbergianae* (1918) p. 44 によれば *Fucus biserratus* THUNB. N. A. Upsal. 1815, 144 (詳しくいえば Nov. Acta R. Soc. Scient. Upsal., Vol. VII, Tab. IV, V, "*Plantae japonicae non-nullae illustratae*").

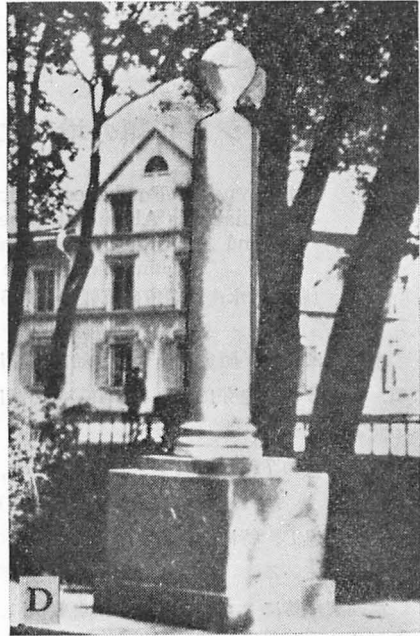
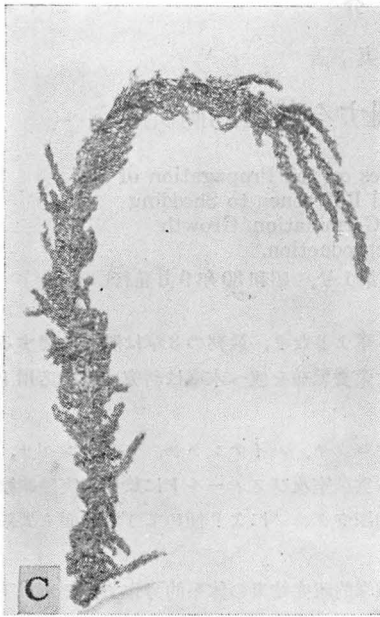
第4カバーより第8カバーには何れも *Fucus* と表記してあるが内に邦産のものは見当たらない。

第9のカバー中には *Fucus serratifolius* (写真B) がある。台紙の裏左上に "e japonia, THUNBERG, incolis Kudawara" とあり、ヨレモクの葉の甚だ細くなつた形で JUEL の *Plant. Thunb.* p. 46 に *Fucus serratifolius* THUNB. N. A. Upsal. 1815, 144. An *F. serratifolius* AG. Dec. alg. IV, 1815, 31?

"*Fucus serratifolius*—Japon. TH. Incolis Kudawara" Nach Prof. K. YENDO's Bestimmung ist es *S. tortile* AG. とある。

第10のカバー中に *Fucus Thunbergii* (写真C) があり此の名が台紙の





右下に記してあり裏の左上には“e mari sinensi. Bladh. et japonico. Th.”とあり普通のウミトラノヲである。

以下第19迄のカバー中には邦産標本は見当たらないが大体次の様な内容である。即ち

第11のカバーには *Mertensia* とあるが内はカラである。

第12のカバーは *Ulva* で *Enteromorpha*, *Padina* 等を容れる。

第13のカバーは *Vaucheria*, 第14のカバーは *Ceramium*, 第15のカバーは *Conferva* でマリモソその他の標本を容れる。第16のカバーは *Lemanea* で *L. fluviatilis* を容れ、第17のカバー中には珪藻の標本唯1枚があり、第18のカバーは *Batrachospermum*, 第19のカバーは *Rivularia* である。

尚 THUNBERG の墓 (写真D) は植物園の直ぐ近くの広い墓地の内にあり写真に掲げた様に円柱状の高いもので附近のものとは恰好がちがうので直ぐ目につくものである。

(北海道大学理学部植物学教室)